

I 建学の精神・短期大学の基本理念 使命・目的、短期大学の個性・特色等

I. 建学の精神・短期大学の基本理念、使命・目的、短期大学の個性・特色等

1. 八戸学院大学短期大学部の建学の精神と教育理念

「神を敬し、人を愛する」

八戸学院大学短期大学部は、カトリック精神に則る道德教育を施し、高潔なる人格の完成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成することを建学の精神とする。

図1 八戸学院大学短期大学部「建学の精神」

八戸学院大学短期大学部（以下、本学）の設置母体である学校法人光星学院（以下、法人）は、昭和 34(1959)年 3 月、創設者洗礼名ヨゼフ中村由太郎（初代理事長）によって創設された。中村由太郎は自らの苦学の体験とキリスト教信者としての愛と奉仕の精神を基に、「若人に教育を与え、人格の陶冶を図り、地域社会の発展に寄与する人材を育成せん」と願い、「神を敬し、人を愛する」を建学の精神に掲げた。

中村由太郎の教育に対する並々ならぬ思いは、昭和 31(1956)年 4 月、光星学院高等学校（現校名：八戸学院光星高等学校）設立に当たって起案された設立趣意書に込められている。すなわち、「進学の希望が満たされない多くの少年達を放置している事態は、地方教育界の未曾有の大事である。純真深刺たる多くの若人達の栄えある前途にこそ偉材が潜みいることを思い、進学の道を平にして彼等に光明を与え、秘めたる天分を見出し、その天分を遺憾なく発揮させ、真に人類社会の進歩発展に寄与せしめんとするものである」。

昭和 46(1971)年 7 月、中村由太郎は法人の理想とする「立体的総合学園」構想を打ち出した。そこには「幼稚園－中学校－高等学校－短期大学－四年制大学－大学院と正規の学校から、社会人を対象とする成人教育を含む生涯教育の場を完成し、この全学を一つの指導原理によって貫き、真に時代が要請する有用人材を育成しよう」と法人の将来の展望が示され、「前途尚遠慮を思わせるものがあるが、急がずあせらず、着実に実行をして完成を期する」と強い決意が表明されている。

このような建学の精神、理念を踏まえ、法人の理想実現に向けて、昭和 46(1971)年 4 月、八戸短期大学（現校名：八戸学院大学短期大学部）が開学した。建学の精神は「神を敬し、人を愛する」という言葉に端的に表現され、さらに、「カトリック精神に則る道德教育を施し、高潔なる人格の完成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成する」と述べられている。また、教育理念として「教育基本法及び学校教育法に基づき、カトリック精神に則り、広く豊かな教養をもち、正しい道德観と高い知性を有する青年の育成に努め、21 世紀の要求している人間の育成、特に地方の時代の到来にこたえ、地方文化や地域経済に密着した教育をする」ことを掲げ、開学以来今日に至るまで受け継がれている。

近年、急激な少子化が進行する中で本学の一層の充実・発展を期するためには、改めて建学の精神、理念に立ち返り、理想実現に向けて法人が一体となって地域と連携を強化する必要があるとの決意がなされた。そこで、法人内すべての学校名に「八戸学院」を冠して統一性を図るとともに、法人を象徴するロゴマークを作成した。それに伴い、平成 25(2013)年 4 月に校名を「八戸短期大学」から「八戸学院短期大学」へと変更し、さらに、

平成 29(2017)年 4 月、八戸学院大学との一層の連携強化を図り、「八戸学院大学短期大学部」と名称変更した。

本学のロゴマークは図 2 のとおりである。



八戸学院大学短期大学部

図 2 八戸学院大学短期大学部ロゴマーク

ロゴマークは「八戸を愛する心」と「無限の可能性」を象徴しており、郷土の「南部菱刺（ひしざし）」をモチーフにして「連続性」をデザインしたものである。また、このロゴマークは八戸の「8」を表現するだけではなく、「八戸学院グループ」が時代を超えて連綿として受け継いでいく「未来への展望」をシンボライズしたものである。

なお、シンボルカラーは、内に秘めた情熱を持ちながら、冷静、沈着な思考力と行動力に富む人材の育成をイメージして、日本固有の伝統色である臙脂色（えんじいろ）とした。

2. 八戸学院大学短期大学部の使命・目的

本学の使命・目的は建学の精神および教育理念に基づき、「八戸学院大学短期大学部学則（以下、「学則」）」第 1 条第 1 項に、「カトリック精神に基づき、広く豊かな教養を授け、深い専門の学術を探究せしめ、正しい道德観と高い知性を有する民主主義的にして平和を愛好する人材を育成する」と定めている。

本学は昭和 46(1971)年に幼児教育学科（平成 16(2004)年、幼児保育学科に名称変更）をもって開学し、16 年後の昭和 62(1987)年、経営情報学科（平成 16(2004)年、現代ビジネス学科に名称変更）を増設した。この 2 学科体制がしばらく続いたが、学生のニーズの多様化を考慮して平成 18(2006)年に現代ビジネス学科をライフデザイン学科へと改組転換し、さらに、地域社会の医療福祉へのニーズに応えるべく、平成 21(2009)年には看護学科（3 年制）を増設した。その後、看護学科はより高度な教育を目指して平成 28(2016)年 4 月に 4 年制の「八戸学院大学健康医療学部看護学科」へと改組し、一方、ライフデザイン学科は入学定員確保に苦慮したことから、平成 30(2018)年学生募集を停止した。

平成 31(2019)年 4 月、新たに介護福祉学科を設立し、本学は幼児保育学科と介護福祉学科の 2 学科体制となった。各学科の教育理念・目的・目標は以下の通りである。

・幼児保育学科

<教育理念>

愛と知性に富み、常に自らの専門性の向上を目指す保育者を育成する。

<教育目的>

理念と実践の融合を図り、保育者として社会の発展に寄与できる人材を育成する。

<教育目標>

1. 専門的知識と技術を有し、子どもの発達過程に応じて豊かな保育環境を構成することができる保育者を養成する。

2. 自らの責務を理解し、他の保育者や専門職者と協働して、子どもの最善の利益を追求することができる保育者を養成する。

・介護福祉学科

＜教育理念＞

福祉・介護サービスの中心的役割を担い、幅広い教養や総合的な判断力及び豊かな人間性を備えた職業人を育成する。

＜教育目的＞

介護の諸活動を主体的かつ合理的に行う能力と態度を育てることにより、福祉社会に貢献できる人材を育成する。

＜教育目標＞

1. 介護の専門的知識と技術を有し、自立支援の観点から介護実践できる能力を身につけた介護福祉士を養成する。
2. 利用者や家族の援助のためのコミュニケーション能力と、他職種協働による介護過程を展開できる能力を身につけた介護福祉士を養成する。

3. 八戸学院大学短期大学部の個性・特色

青森県内には5つの短期大学があるが、津軽地区に4つの短期大学が偏在し、南部地区には本学1校のみが所在している。

ほとんどの学生が近隣の市町村から入学しており、9割以上の学生の出身地が青森県内である。例年約9割が女子学生であり、青森県内の女子によるニーズが大勢を占めていることが分かる。また、岩手県沿岸の久慈市・洋野町、内陸の二戸市・軽米町とは近隣関係にあり、それらの地域からも毎年一定数が入学している。交通の便が良い立地ではないが、スクールバスの路線が整備されていることや、地方の特性として自家用車の所有率が高いことから、自宅通学の学生が多いという特徴がある。

本学はこのように学生の構成上からも地域とのつながりが深く、また、学生・教職員ともにさまざまな形で地域と関わりをもち、地域社会のニーズにこたえてきた。現在は八戸市・三沢市・階上町・五戸町・田子町・新郷村と地域協定を締結し、地域社会とのいっそうの連携強化を図っている。

本学の教育活動には次のような特色が見られる。なお、ライフデザイン学科は募集停止し、介護福祉学科は平成31(2019)年度の開設であるため、以下、幼児保育学科を中心に述べる。

(1) 専門教育の前提となる豊かな教養教育

本学では各学科とも専門的な資格・免許の取得を目指しており、2年間という短い期間でそれを実現するため、教養教育に多くの時間を割くことは簡単ではない。しかし、保育者も介護福祉士も専門性の土台として、豊かな人間性が求められるのは間違いなく、そのために、限られたカリキュラムの中で豊かな教養教育の実現を図っている。

本学の教養教育の全学的な目標は、学位授与の方針に示されているとおり、『神を敬し、人を愛する』というカトリック精神に基づき、幅広い教養および総合的な判断力と豊かな

人間性」を身につけることである。そのために、幼児保育学科では必修の「宗教学」において、建学の精神について学んでいる。また、幼児保育学科では保育者に求められる情操を育む柱として音楽教育を重視し、「音楽」を必修としている。教養科目として、その他に選択の10科目を設けていたが、学びの質の向上を図るため、平成30(2018)年度カリキュラムの改訂を行い、「合唱Ⅰ・Ⅱ」、「美術Ⅱ」、「デザイン基礎」、「身体表現の基礎」、「海外事情」を開設した。

「合唱」はそれまで学科指導で行ってきた音楽指導を、学科の特性を踏まえて必修科目にしたものである。その他は選択科目であり、「美術Ⅱ」と「身体表現の基礎」は時間割の都合上5時限目に設定した。どの科目も学生の教養と人間性を培うことを目標にしているが、同時に音楽、美術、体育という保育の専門的技術と密接に関連しているのが特徴である。さらに、本学では現在、学生の視野と経験を広げるため、国際交流を推進しており、留学や語学研修に対応するために「海外事情」を開設した。

(2) 資格・免許の取得につながる専門教育

幼児保育学科では保育士資格と幼稚園教諭二種免許状、介護福祉学科では介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指したカリキュラムを編成している。

幼児保育学科では専門教育の柱として実習を重視し、学科内に実習委員会を組織して事前事後指導に当たっている。また、社会で活躍する人材へと成長するためには、専門知識やスキルだけでなく、社会人基礎力や問題解決能力等の汎用的能力も求められる。そのために、講義の中に学生同士の対話的な活動を取り入れるなど、主体性を育む教育活動を促進しているほか、カリキュラム外での学科指導、行事、ボランティア活動にも積極的に取り組んでいる。具体的には、実践国語表現、模擬保育等を実習指導と連携して行い、主な行事として「宿泊研修」、「八戸七夕祭り」(流し踊り、吹き流し製作)、「子どもの部屋」(学生祭企画)、「砂浜彫刻」、「実習報告会」、「ミニ・オペレッタ」を行っている。また、学生には多様なボランティアの実践を推奨し、学科として指導を行っている。

ライフデザイン学科では、「食・観光コース」、「福祉・健康コース」、「ビジネススキルコース」を設け、食生活アドバイザー、フードコーディネーター、観光地理検定、観光英語検定、国内旅行業務取扱管理者、介護職員初任者研修、レクリエーション・インストラクター、福祉レクリエーション・ワーカー、医療事務、介護事務、ネイリスト技能検定、日商PC検定、日商簿記検定、日商販売士検定、ITパスポート試験、マイクロオフィススペシャリスト、マルチメディア検定の資格取得につながるよう関連科目を開講し、教育指導を行っていた。

(3) 地域に根ざした教育活動

本学は学生の出身地、就職先ともに地域と密接に関連しているが、在学中の教育活動もまた地域資源を活用して行われている。

まず、幼児保育学科では学生の出身地域の施設において実習を行っている。そのために、学科と実習先との連携が重要であり、実習担当者との連絡会や施設との懇談会、学生による報告会を実施している。ライフデザイン学科ではインターンシップを地域の企業において実施していた。また、「ボランタリデー」を毎年開催し、平成30(2018)年度はNPO団

体の協力を得て、「むつ湾の山と海をつなぐ森の植樹事業」と題し、青森県東津軽郡平内町の「社会貢献の森」にて環境保全について学び、植樹活動を行った。

幼児保育学科ではゼミナールが必修科目である。地域の施設、保育所、幼稚園等で調査を実施したり、研究成果を発表しているゼミナールが多く、まさに地域をキャンパスとした教育活動が展開されている。

同様に、多くの行事が地域をフィールドとして行われている。幼児保育学科では「砂浜彫刻」を三陸復興国立公園内の白浜海岸で行い、学生祭で実施する「子どもの部屋」や八戸市公民館で発表する「ミニ・オペレッタ」には、毎年多くの地域の子どもと保護者が訪れている。また、八戸七夕祭り前夜祭の「八戸小唄流し踊り」には本学を挙げて参加している。

さらに、本学ではカリキュラム外の教育活動として、ボランティア活動を重視しており、学生はボランティア募集の掲示を見て個別に申し込んで活動するが、その他にゼミナールやサークルを主体としたボランティア活動も行われている（基準 A を参照）。